# JAPOS 回報の復活と投稿のお願い

米澤 樹（みさと天文台 / 和歌山大学大学院観光学研究科）
今村 和義（阿南市科学センター）

## 1. はじめに

日本公開天文台協会(以下、JAPOS)の会則第 3 条第 2 項では JAPOS の実施する事業として、「年会集録および回報の刊行」が定められている[1]。しかしながら、回報は 2012 年 5 月 13 日に発行された第 14 号を最後に刊行が停止していた。運営委員会の回報担当では、この状況を鑑み、回報の仕組みを改めて整備し、2025 年 4 月より受付を再開した。本稿は、回報の目的、有用性、懸念事項および復活に至った経緯を整理し記録することを目的とする。

## 2. 回報の目的と課題の整理

### 2.1. 回報の目的

回報の目的は、以下の 3 点にあると考える。

- 公開天文台に関する情報をメーリングリスト（以下、ML）やウェブサイト等より公式的な形で発表ができること。
- 会員にとって有益な情報を提供すること。
- 会員が公式的な実績を構築できる場とすること。

### 2.2. 回報の有用性

回報が持つ有用性は以下の通りである。

- JAPOS 会員にとって、JAPOS 内で研究成果や活動報告を発表する場が新たに確保される。
- 会員が有益な情報にアクセスできるようになる。
- 非会員が JAPOS への入会を検討する動機づけとなる。
- 公開天文台に関する記録が蓄積される。

### 2.3. 回報の懸念事項

一方、回報の運用には懸念事項も存在する。

- 継続的な寄稿が集まるのかという点（以前の発行時は回報が集まらなかった）。
- JAPOS の限られたリソースの中、より優先して安定的に運営すべき課題がある。
- 他誌『天文教育』等の媒体との棲み分けが可能か。
- 立ち上げメンバーの退任後も継続していけるのか。

## 3. 回報の復活の経緯

### 3.1. 調査研究委員会での議論

回報の復活が最初に議論されたのは、調査研究委員会の ML においてである。2022 年 12 月、委員の澤田幸輝氏が公開天文台白書に関する研究成果を『天文教育』へ掲載することを相談したところ、複数人から「まずは JAPOS 内で情報共有すべき」との指摘があった。当時は回報が休止していたため、掲載は見送られ、回報の必要性を運営委員会へ伝えることとなった。結局この研究成果は第 17 回全国大会(姫路大会)で発表され、集録に掲載された[2]。

2023 年度の JAPOS 総会でも回報の必要性が議題として上がり、運営委員会は検討する旨を回答し

た[3]。同年、筆者らが運営委員会の理事として選任され、回報の復活に向けた取り組みを開始した。

### 3.2. 運営委員会での議論

第 17 回全国大会の終了後、新任理事となった阿南市科学センターの今村より以下のような提案がなされた[4]。

- 電子的な発行(PDF 公開)のみとすることで、作業負担の軽減を図る。
- 事務局は最低限の誤字脱字チェックに留め、随時受付・発行する。
- 公開天文台で働く「人」の公式な実績・業績構築に資するならば、復活させる意味がある。
- 復活させるのであれば、提案者が担当する。

それに対し、佐賀市星空学習館の早水勉氏より次のようなコメントが寄せられた[5]。

- 回報が休止した背景には、寄稿の不足や締め切りが守られず、自然消滅したことがある。
- 記事の内容は PAO ナビ等の他の媒体へ移行している。
- 運営委員会の人的資源不足により、回報より優先して取り組むべき課題がある。
- これらの過去の経緯を踏まえ、回報の目的、有用性、懸念事項を再考し、真に必要か検討すべきである。

その後、運営委員会では発行が遅れていた大会集録の対応など、回報より優先すべき課題が多かったため、議論は停滞し、結論が出ないままであった。

2023 年 4 月に運営委員会の ML にて再び話題に上がった際も、過去の寄稿不足が懸念点として提示された。まずは人的資源を軽減した形で回報を発行する場を設けるため、以下の省人化方針により復活を進めることとなった。

- 回報担当者を理事の今村、米澤が担当する。
- ウェブサイト上での電子媒体（PDF）掲載のみとする。
- 投稿者自身にひな形を用いて完成原稿を作成・投稿してもらう。
- WordPress を使用し、複数人での作業を可能にする。
- 内容を確認後、通し番号を付けてウェブサイトで公開・管理し、ML で通知する。
- 解説記事、各種報告、査読なしの研究発表など、幅広い内容を受入れる。
- 気軽に投稿でき、かつ会員の実績作りの場を目指す。
- リレー形式の投稿など、気軽に執筆できる仕組みを検討する（各天文台の紹介、望遠鏡紹介、SNS アカウント運用ノウハウなど)。
- 旬な話題(視察報告ほかの大会での発表報告とか）は、投稿希望があれば速やかに発行できるようにする。

2023 年 5 月末に、WordPress のインストールなど回報復活の準備を進めていたが、2024 年度の総会までに再開には至らなかった。2024 年度の総会では、回報の進捗ついて、運営委員会内で前向きに動いていることを説明した[6]。その後 2024 年の年末に今村が回報ページの整備を行い、2025 年 3 月 14 日に JAPOS の ML で回報復活が正式に通知され[7]、同年 4 月から運用が始まった。

## 4. 現状と投稿への誘い

本稿執筆時点(2025 年 9 月)で回報復活から約半年が経過したものの、投稿は現時点において 0 件である。この実態は現スタイルの回報がまだ会員に浸透していないことが一因と考えられる。今後は定期的に投稿を誘発するアナウンスを ML に行うなど、回報の係として 1 例でも多くの投稿を増やす努力を行いたい。

現在、公開天文台 100 周年史の編纂に関わっているが、多くの施設について、その沿革が十分に記

録されていないことに気付かされる。博物館としての側面を持つ公開天文台にとって様々な記録を残すことは極めて重要である。また、業務上の課題やその解決策の共有は、多くの施設にとって有益な情報となるだろう。ようやくこの場が整ったので、是非とも気軽にご活用いただき、積極的なご投稿をお待ちしている。

## 参考文献


[1] 日本公開天文台協会(n.d.)「日本公開天文台協会 会則」,
https://www.koukaitenmondai.jp/kaisoku/kaisoku.htm

[2] 澤田幸輝(2024)「『公開天文台白書 2018』をもとにした公開天文台の現状をめぐる定量的分析：持続可能な施設運営を目指して」,『日本公開天文台協会第 17 回全国大会 集録』, pp. 77-79

[3] 日本公開天文台協会(2024)「日本公開天文台協会 2023 年度総会 議事録」,『日本公開天文台協会第 17 回全国大会 集録』, pp. 9-13

[4] JAPOS の ML[558_japos]より

[5] JAPOS の ML[560_japos]より

[6] 日本公開天文台協会(2024)「日本公開天文台協会 2024 年度総会 議事録」,『日本公開天文台協会第 18 回全国大会 集録』, pp. 9-13

[7] JAPOS の ML[1282_japos]より

米澤 樹

yonzawa@obs.jp

今村 和義

imamura@ananscience.jp